

各関係機関長 殿

岡山県病虫害防除所長

病虫害発生予察情報について

病虫害発生予報第6号を下記のとおり発表したので送付します。

令和6年度病虫害発生予報第6号

令和6年8月28日
岡山県

予報概評

作物名	病虫害名	発生時期	発生量
水 稲	穂いもち 枯病 白葉枯病 穂枯れ もみ枯細菌病 トビイロウンカ	並 — — — —	やや少 並 並 並 やや少
ダイズ	べと病 紫斑病 葉焼病 ハスモンヨトウ カメムシ類	— — — — —	並 並 やや多 やや多 並
モ モ	モモハモグリガ ハダニ類 ウメシロカイガラムシ	遅 — 早	やや少 並 やや多
ブドウ	褐斑病 べと病 さび病 ブドウトラカミキリ	— — — —	並 並 やや少 並
キュウリ	べと病 褐斑病 炭疽病 うどんこ病	— — — —	並 並 やや多 並
トマト	疫病 斑点細菌病 葉かび病	並 — —	並 やや多 並
アブラナ 科野菜	アブラムシ類 モザイク病 コナガ ハイマダラノメイガ	— — — —	やや少 やや少 やや多 やや多
キ ク	ナミハダニ	—	やや多

1. 普通作物

(水 稻)

(1) 穂いもち (晩生種)

予報内容

発生時期 並

発生量 やや少

予報の根拠

ア. イネ (晩生種) の生育は平年並である。

イ. 8月14～15日の巡回調査によると、南部地帯の葉いもちの発生圃場率は17.1%で、平年(47.3%)より低かった。

ウ. 8月22日の季節予報によると、9月の降水量は平年並か多いとされており、降水量が多い場合、発病をやや助長する条件となる。

(2) 紋枯病 (晩生種)

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 8月14～15日の巡回調査によると、発生圃場率は16.9%で、平年(35.8%)より低かった。

イ. イネの茎数は平年並である。

ウ. 8月22日の季節予報によると、9月の気温は平年より高く、降水量は平年並か多いとされており、発病を助長する条件となる。

(3) 白葉枯病 (中生種、晩生種)

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 8月14～15日の巡回調査では、平年同様発生を認めなかった。

(4) 穂枯れ (ごま葉枯病菌による穂枯れ、晩生種)

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 8月14～15日の巡回調査によると、葉でのごま葉枯病の発生圃場率は11.2%で平年(19.6%)よりやや低かった。

イ. 8月22日の季節予報によると、9月の気温は平年より高く、降水量は平年並か多いとされており、降水量が多い場合、発病を助長する条件となる。

(5) もみ枯細菌病 (晩生種)

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 前年度の発生量は平年より少なかったことから、本年度の種子の保菌率は平年より少ないと考えられる。

イ. 8月22日の季節予報によると、9月の気温は平年より高く、降水量は平年並か多いとされており、降水量が多い場合、発病を助長する条件となる。

(6) トビイロウンカ

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 赤磐市の予察灯における誘殺は認めておらず、平年（1.6頭）より少なかった。

イ. 8月14～15日の巡回調査によると、発生圃場率0%で平年（9.7%）より低かった。

（ダイズ）

（1）べと病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 8月22日の季節予報によると、9月の気温は平年より高く、降水量は平年並か多いとされており、降水量が多い場合、発病をやや助長する条件となる。

（2）紫斑病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 8月22日の季節予報によると、9月の気温は平年より高く、降水量は平年並か多いとされており、降水量が多い場合、発病をやや助長する条件となる。

（3）葉焼病

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 8月22日の季節予報によると、9月の気温は平年より高く、降水量は平年並か多いとされており、降水量が多い場合、発病を助長する条件となる。

（4）ハスモンヨトウ

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 県予察圃場のフェロモントラップにおける8月1半旬～4半旬の誘殺数は1,416頭と平年（1040.2頭）よりやや多かった。

イ. 8月14～15日の巡回調査によると、白化葉の発生圃場率は2.7%で平年（0.2%）より高かった。

ウ. 8月22日の季節予報によると、9月の気温は平年より高く、降水量は平年並か多いとされており、本虫の増殖をやや助長する条件となる。

（5）カメムシ類

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市の予察灯における8月1半旬～4半旬の誘殺数は、アオクサカメムシが2頭で平年（6.8頭）より少なく、イチモンジカメムシが13頭で平年（15.4頭）並であった。

イ. 8月22日の季節予報によると、9月の気温は平年より高く、降水量は平年並か多いとされており、本虫の増殖をやや助長する条件となる。

2. 果樹

（モ モ）

(1) モモハモグリガ

予報内容

発生時期 遅
発生量 やや少

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおける8月1半旬～4半旬の誘殺数は0頭で平年(0.4頭)よりやや少なかった。
イ. 8月6日の県南部における巡回調査では発生を認めず、平年(0%)並であった。

(2) ハダニ類

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 8月6日の県南部における巡回調査によると、発生圃場率は21.4%で平年(20.3%)並であった。
イ. 8月22日の季節予報によると、9月の気温は平年より高く、降水量は平年並か多いとされており、本虫の増殖を助長する条件ではない。

(3) ウメシロカイガラムシ(第3世代)

予報内容

発生時期 早
発生量 やや多

予報の根拠

ア. 7月16日の巡回調査では第2世代成虫の発生圃場率は10.7%で、平年(1.8%)より高く、発生程度は平年並であった。
イ. 8月22日の季節予報によると、9月の気温は平年より高く、降水量は平年並か多いとされており、本虫の増殖を助長する条件ではない。

防除上の参考事項

ア. 近年は、ウメシロカイガラムシと外観および被害が類似するが、発生時期が異なる近縁種のクワシロカイガラムシが優先している圃場もある。防除が困難な場合は、優占種を把握する必要がある。

(ブドウ)

(1) 褐斑病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 8月6日の巡回調査における発生圃場率は36.4%で、平年(45.0%)並であった。
イ. 8月22日の季節予報によると、9月の降水量は平年並か多いとされており、降水量が多い場合には発生を助長する条件となる。

(2) ベと病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 8月6日の巡回調査によると、発生圃場率は100%で平年(88.2%)並であった。
イ. 8月22日の季節予報によると、9月の気温は平年より高く、降水量は平年並か多いとされており、降水量が多い場合には発生を助長する条件となる。

(3) さび病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 8月6日の巡回調査によると、発生圃場率は0%で平年(16.0%)より低かった。

イ. 8月22日の季節予報によると、9月の降水量は平年並か多いとされており、発生を助長する条件ではない。

(4) ブドウトラカミキリ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 8月6日の巡回調査において、平年同様発生を認めなかった。

3. 野菜

(キュウリ)

(1) ベと病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 8月21日の巡回調査によると、発生圃場率は75.0%で平年(56.0%)並であった。

イ. 8月22日の季節予報によると、9月の気温は平年より高く、降水量は平年並か多いとされており、発病を助長する条件ではない。

(2) 褐斑病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 8月21日の巡回調査によると、発生圃場率は50.0%で平年(53.5%)並であった。

イ. 8月22日の季節予報によると、9月の気温は平年より高く、降水量は平年並か多いとされており、発病をやや助長する条件である。

(3) 炭疽病

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 8月21日の巡回調査によると、発生圃場率は62.5%で平年(28.5%)より高かった。

イ. 8月22日の季節予報によると、9月の気温は平年より高く、降水量は平年並か多いとされており、発病をやや助長する条件である。

(4) うどんこ病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 8月21日の巡回調査によると、発生圃場率は50.0%で平年(71.5%)並であった。

イ. 8月22日の季節予報によると、9月の気温は平年より高く、降水量は平年並か多いとされており、発病を助長する条件ではない。

(トマト)

(1) 疫病

予報内容

発生時期 並

発生量 並

予報の根拠

ア. 8月21日の巡回調査では発生を認めず、発生圃場率は平年(1.3%)並であった。

イ. 8月22日の季節予報によると、9月の気温は平年より高く、降水量は平年並か多いとされており、発生を助長する条件ではない。

(2) 斑点細菌病

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 8月21日の巡回調査では、平年同様発生を認めなかった。

イ. 8月22日の季節予報によると、9月の気温は平年より高く、降水量は平年並か多いとされており、発病をやや助長する条件である。

(3) 葉かび病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 8月21日の巡回調査によると、発生圃場率は33.3%で平年(43.8%)並であった。

イ. 8月22日の季節予報によると、9月の気温は平年より高く、降水量は平年並か多いとされており、発病を助長する条件ではない。

(アブラナ科野菜)

(1) アブラムシ類とアブラムシ伝搬性モザイク病

予報内容

発生量 アブラムシ類 やや少

モザイク病 やや少

予報の根拠

ア. 県予察圃場(赤磐市)の黄色水盤における8月1半旬~4半旬の飛来数は24頭で、平年(95.9頭)より少なかった。

イ. 8月21日の巡回調査によると、ダイコンでのアブラムシ類の発生圃場率は0%で平年(4.5%)並であった。

ウ. 8月21日の巡回調査によると、ダイコンでのモザイク病の発生圃場率は0%で、平年(13.5%)よりやや低かった。

エ. 8月22日の季節予報によると、9月の気温は平年より高く、降水量は平年並か多いとされており、本虫の増殖を助長する条件ではない。

(2) コナガ

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 県予察圃場(赤磐市)における8月1半旬~4半旬のフェロモントラップの誘殺数は2頭で、平年(1.5頭)並であった。

イ. 8月21日の巡回調査によると、ダイコンでの発生圃場率は80.0%で平年(34.6%)よりやや高かった。

(3) ハイマダラノメイガ

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 8月22日の巡回調査によると、県南部のチンゲンサイでの発生圃場率は33.3%で、平年(32.2%)並であった。

イ. 8月22日の季節予報によると、9月の気温は平年より高く、降水量は平年並か多いとされており、本虫の増殖をやや助長する条件である。

防除上の参考事項

ア. 幼苗期に加害されると被害株は心止まりになるので、早期発見・早期防除に努める。

イ. 育苗期間中に寒冷紗で被覆を行うと、成虫の侵入・産卵防止に有効である。

ウ. 薬剤感受性の低下が懸念されるので同一系統の薬剤の連用を避け、薬剤以外の防除対策を組み込む。

4. 花 き

(キ ク)

(1) ナミハダニ

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 8月21、22日の巡回調査によると、発生圃場率は50.0%で、平年(16.4%)よりやや高かった。

イ. 8月22日の季節予報によると、9月の降水量は平年並か多いとされており、本虫の増殖を助長する条件ではない。

この情報は、岡山県病虫害防除所ホームページでも公開しています。

アドレスは、<http://www.pref.okayama.jp/soshiki/239/> です。

